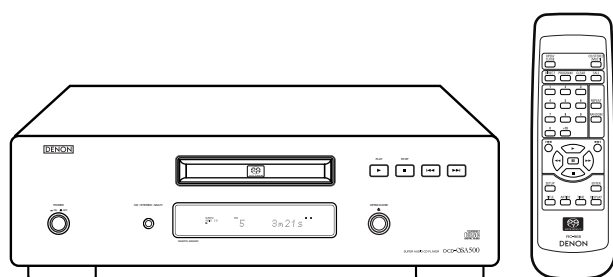
DENON

取扱説明書

DCD-SA500

SUPER AUDIO CD PLAYER

スーパーオーディオCDプレーヤー

安全にお使いいただくために―必ずお守りください。

- お買い上げいただき、ありがとうございます。
- ご使用の前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。
- お読みになった後は、後日お役に立つこともありますので、必ず保存してください。

目　次

1 使用上のご注意

正しく安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずよくお読みください。

絵表示について

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その絵表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。

注意　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

警 告

■安全上お守りいただきたいこと

万一異常が発生したら、電源プラグをすぐに抜く

煙が出ている、変なにおいがする、異常な音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、煙が出なくなるのを確認してから販売店に修理をご依頼ください。
お客様による修理は危険ですので絶対におやめください。

電源プラグをコンセントから抜け

内部に異物を入れない

ディスク挿入口などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。
万一内部に異物が入った場合は、まず本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

電源コードは大切に

電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また重いものをのせたり、加熱したり、引っ張ったりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。
電源コードが傷んだら、すぐに販売店に交換をご依頼ください。

使用上のご注意（つづき）

⚠ 警告 つづき

■安全上お守りいただきたいこと

水が入ったり、濡らしたりしないように
雨天・降雪中・海岸・水辺での使用は特にご注意ください。火災・感電の原因となります。

キャビネット（天板・裏ぶた）を外したり、改造したりしない
内部には電圧の高い部分がありますので、触ると感電の原因となります。
内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。
この機器を改造しないでください。火災・感電の原因となります。

ご使用は正しい電源電圧で
表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。

ACアウトレットのご使用は表示供給電力内で
接続する装置の消費電力の合計が表示供給電力を超えないようにしてください。火災の原因となります。
また供給電力内であっても、電源を入れたときに大電流の流れる機器（電熱器具・ヘアードライヤー・電磁調理器など）は接続しないでください。

雷が鳴り出したら
アンテナ線や電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

乾電池は充電しない
電池の破裂・液漏れにより、火災・けがの原因となります。

落としたり、キャビネットを破損した場合は
まず本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

ヘッドホンを使用するときは音量を上げすぎない
耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聴くと聴力に悪い影響を与えることがあります。

■取り扱いについて

風呂場では使用しない
火災・感電の原因となります。

水場での使用禁止

花瓶やコップ、小さな金属物をこの機器の上に置かない
万一内部に水や異物が入った場合は、まず本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

この機器の上に花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品や水などが入った容器を置かない
こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。

使用上のご注意（つづき）

⚠ 注 意

■安全上お守りいただきたいこと

電源コードを熱器具に近づけない
コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

電源プラグを抜くときは
電源プラグを抜くときは電源コードを引っ張らずに必ずプラグを持って抜いてください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
また、濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。

濡れた手で電源プラグを抜き差ししない
感電の原因となることがあります。

ディスク挿入口に手を入れない
特に幼いお子様にご注意ください。けがの原因となることがあります。
万一手を挟まれた場合は、すぐに本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

指を挟まれないよう注意

レーザー光源をのぞき込まない
レーザー光が目に当たると視力障害を起こすことがあります。

電池を交換する場合は
極性表示に注意し、表示通りに正しく入れてください。間違えますと電池の破裂・液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。指定以外の電池は使用しないでください。また新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂・液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

機器の接続は説明書をよく読んでから接続する
テレビ・オーディオ機器・ビデオ機器・スピーカーなどの機器を接続する場合は、電源を切り、各々の機器の取扱説明書に従って接続してください。
また接続は指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したり、コードを延長したりすると発熱し、やけどの原因となることがあります。

電源を入れる前には音量を最小にする
突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。

■置き場所について

次のような場所には置かない
火災・感電の原因となることがあります。
- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるようなところ
- 湿気やほこりの多いところ
- 直射日光の当たるところや暖房器具の近くなど高温になるところ

使用上のご注意（つづき）

⚠ 注 意 つづき

■置き場所について

不安定な場所に置かない
ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

壁や他の機器から少し離して設置する
壁から少し離して据え付けてください。また放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面や背面から少し隙間をあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

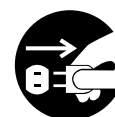
■取り扱いについて

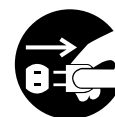
この機器に乗ったり、ぶら下がったりしない
特に幼いお子様のいるご家庭では、ご注意ください。倒れたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。

重いものをのせない
機器の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

移動させる場合は
まず電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、アンテナ線・機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してからおこなってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
この機器の上にテレビなどを載せたまま移動しないでください。倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

■使わないときは

長時間の外出・旅行の場合は
安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

■お手入れについて

お手入れの際は
安全のため電源プラグをコンセントから抜いておこなってください。感電の原因となることがあります。

5年に一度は内部の掃除を
販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前におこなうと、より効果的です。
なお、内部の掃除費用については販売店などにご相談ください。

2 取り扱い上のご注意

結露現象について

■結露とは

冬期に暖房をした部屋の窓ガラスに水滴がつくような現象をいいます。

■結露が起こる条件は

冬期などに本機を戸外から暖房中の室内に持ち込んだり、部屋の温度を暖房などで急に上げたりすると本機内部の動作部に露がつき、正常に動作しなくなることがあります。
結露は、夏にエアコンの風が直接当たるところでも起こることがあります。その場合には本機の設置場所を変えてください。

■結露後の処置は

◎ 結露が起こった場合は、電源を入れてしばらく放置しておいてください。周囲の状況によって異なりますが、1〜2時間で使用できるようになります。
◎ ディスクに露がついている場合がありますので、きれいにふきとってください。

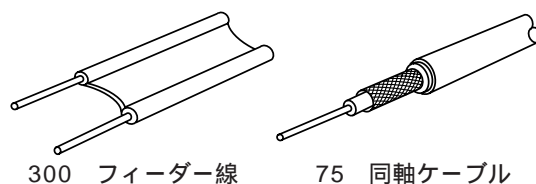
設置の際のご注意

■本機やマイクロコンピューターを搭載した電子機器をチューナーやテレビと同時に使用する場合、チューナー・テレビの音声や映像に雑音や画面の乱れが生じることがあります。このような場合には次の点に注意してください。

◎本機をチューナーやテレビからできるだけ離してください。

◎チューナーやテレビのアンテナ線を本機の電源コードおよび入出力などの接続コードから離して設置してください。

◎特に室内アンテナや300Ωフィーダー線をご使用の場合に起こりやすいので、屋外アンテナおよび75Ω同軸ケーブルのご使用をおすすめします。

300Ωフィーダー線　　75Ω同軸ケーブル

■本機の上にテレビ（小型テレビを含む）や置きものなどを載せないでください。

お手入れについて

■キャビネットや操作パネル部分の汚れをふきとるときは柔らかい布を使用し、軽くふきとってください。

◎化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書に従ってください。

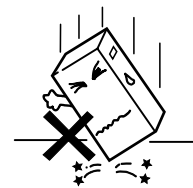
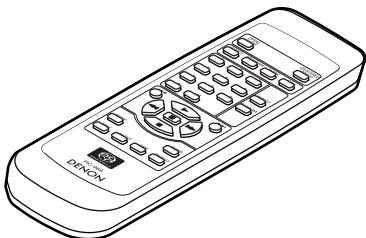
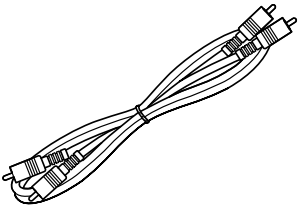
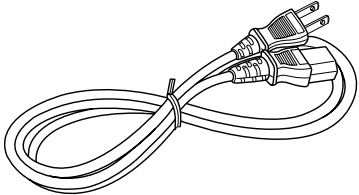
■ベンジン・シンナーなどの有機溶剤および殺虫剤などが本機に付着すると変質したり変色することがありますので使用しないでください。

使わないときは

■ふだん使わないとき

◎ 必ずディスクを取り出し、電源を切ってください。
◎ 外出やご旅行の場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

■移動させるとき

◎ 衝撃を与えないでください。

◎ディスクを取り出し、必ず電源プラグを抜き取り、他のオーディオ機器との接続コードを取り外してから移動させてください。

3 本機の特長

1. 高性能スーパーオーディオCD用D/Aコンバーターを搭載

スーパーオーディオCD/CDの再生系には、DENONの上位機種プレーヤーDCD-SA10で搭載したD/Aコンバーターの技術を踏襲した、定電流源によるマルチレベル構成D/Aコンバーターを各チャンネルに搭載しています。
S/N比が高く、ダイナミックレンジの広いサウンドを再生します。

2. デジタル/アナログ独立デュアル電源トランス

デジタル電源及びアナログ電源の心臓部となるトランスを各々独立させました。これにより、特にデジタル電源からアナログ電源への干渉や電源変動を抑え、安定したサウンド再生を実現しています。

3. ステレオ2チャンネル再生時にサラウンドチャンネル側オーディオ電源を自動的にOFF

ステレオ2チャンネル再生（スーパーオーディオCD/CD共に）した場合には、サラウンドチャンネル側のオーディオ電源を自動的にOFFし、サラウンド回路からの干渉を抑えると共に、電源に余裕を持たせ、重厚なサウンドを実現しています。

4. デジタル制御部とアナログ部の分離による、相互干渉排除設計

デジタル制御部基板をドライブメカと共にコンパクトにレイアウト、鋼板によるシールド構造にし、デジタル制御部からアナログ回路への影響を抑えています。

5. 高性能ハイブリッド構造「S.V.H.ローダー」搭載

4 付属品について

★ 本体とは別に下記の付属品がついています。ご使用の前にご確認ください。

リモコン（RC-968）········1個	ピンプラグコード··········1本	電源コード················1本

単3形乾電池 ····························2本
保証書（梱包箱に貼り付けられています。）
取扱説明書（本書） ······················1冊
製品のご相談と修理・サービス窓口一覧表 ··1枚

5 保証とサービスについて

1 この商品には保証書が添付されております。
保証書は所定事項をお買い上げの販売店で記入してお渡し致しますので、記載内容をご確認のうえ大切に保存してください。

2 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。
万一故障した場合には、保証書の記載内容により、お買い上げの販売店またはお近くの修理相談窓口が修理を申し受けます。
但し、保証期間内でも保証書が添付されない場合は、有料修理となりますのでご注意ください。
詳しくは保証書をご覧ください。

※ 修理相談窓口については、付属品『製品のご相談と修理・サービス窓口一覧表』をご参照ください。

3 保証期間後の修理については、お買い上げの販売店またはお近くの修理相談窓口にご相談ください。
修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理致します。

4 本機の補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後8年です。

5 保証および修理についてご不明の場合は、お買い上げの販売店またはお近くの修理相談窓口にご相談ください。

※ 当社製品のお問い合わせについては、お客様相談窓口にご連絡ください。

詳しくは、付属品『製品のご相談と修理・サービス窓口一覧表』をご参照ください。

6 接続のしかた

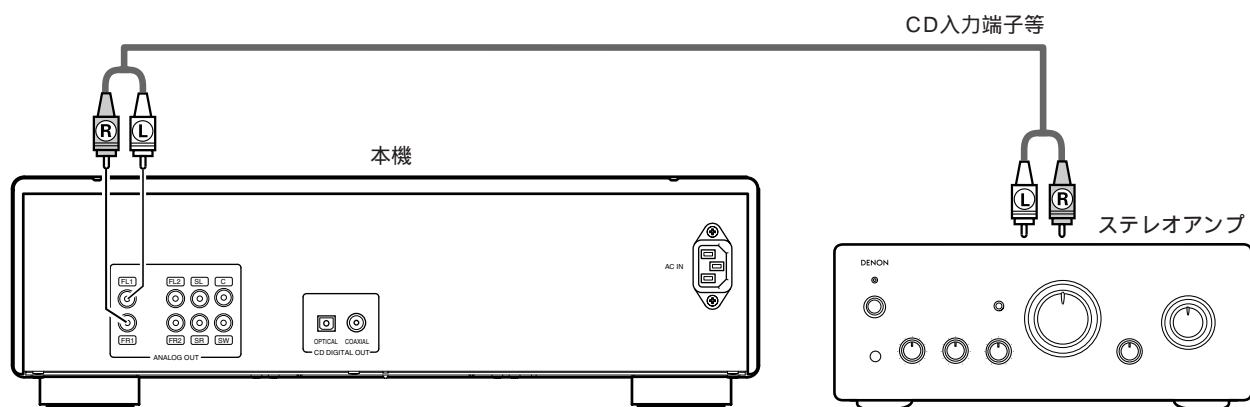
★ 正しく接続をおこなうために、接続する機器の取扱説明書を参照してください。

ご注意

- すべての接続が終わるまで、電源プラグをコンセントに差し込まないでください。
- 電源を入れたまま接続をおこなうと雑音が発生し、スピーカーを破損する恐れがあります。
- 左右のチャンネルを確かめてから、正しくLとL、RとRを接続してください。
- 電源プラグはしっかり差し込んでください。不完全な差し込みは雑音発生の原因となります。
- 電源コードと接続コードを一緒に束ねると、ハムや雑音の原因となることがあります。
- 電源プラグを差し込むときは、お好みの音質となる方向に接続することを推奨します。
- アンプのPHONO入力端子には接続しないでください。故障の原因となります。
- 本機の周囲環境は35℃以下となるように設置してください。

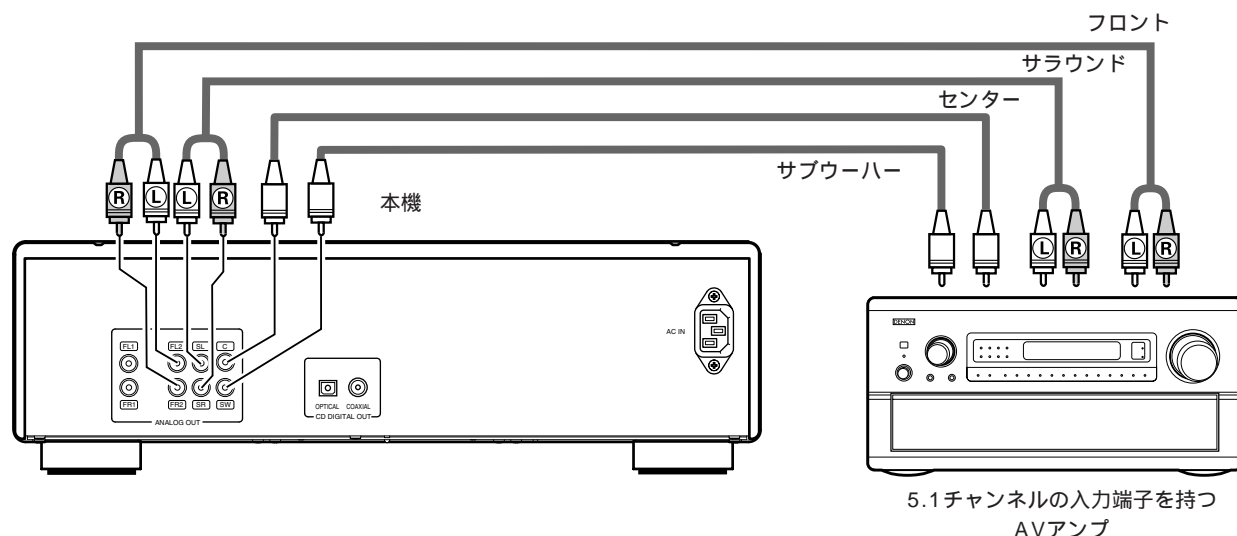
(1) アナログ出力端子の接続

1 ステレオ2チャンネルアンプへの接続

- 付属のピンプラグコードを使用して、下図のように接続してください。
- FR1とFR2、FL1とFL2は同じ信号を出力します。
- アンプの入力端子は、CD、AUXまたは他のオーディオ用入力端子を使用してください。

接続のしかた（つづき）

2 マルチチャンネルアンプ（AVアンプなど）への接続

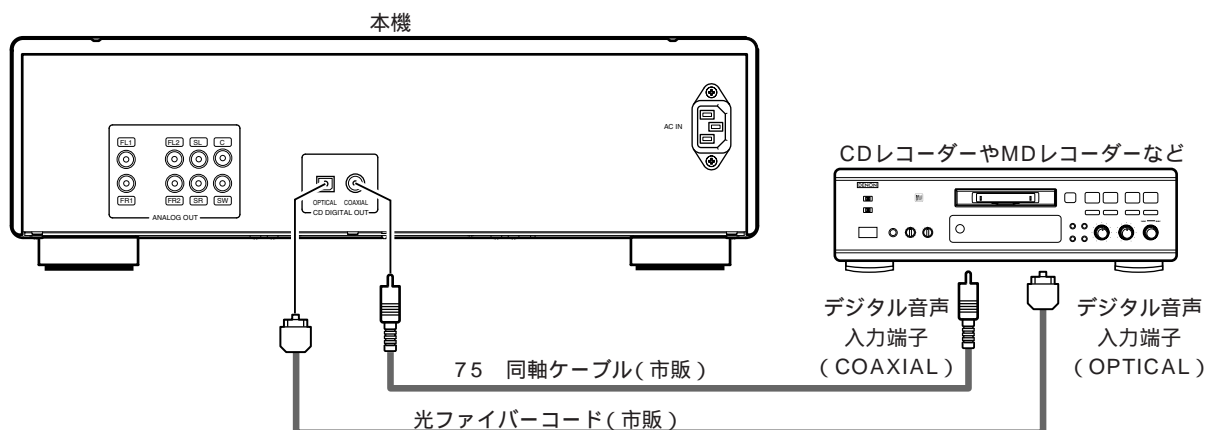
本機はアナログ5.1チャンネル音声を出力することができます。
アナログ5.1チャンネル音声入力を装備したマルチチャンネルアンプに接続すると、マルチチャンネルで収録されたスーパーオーディオCDの演奏をお楽しみいただけます。

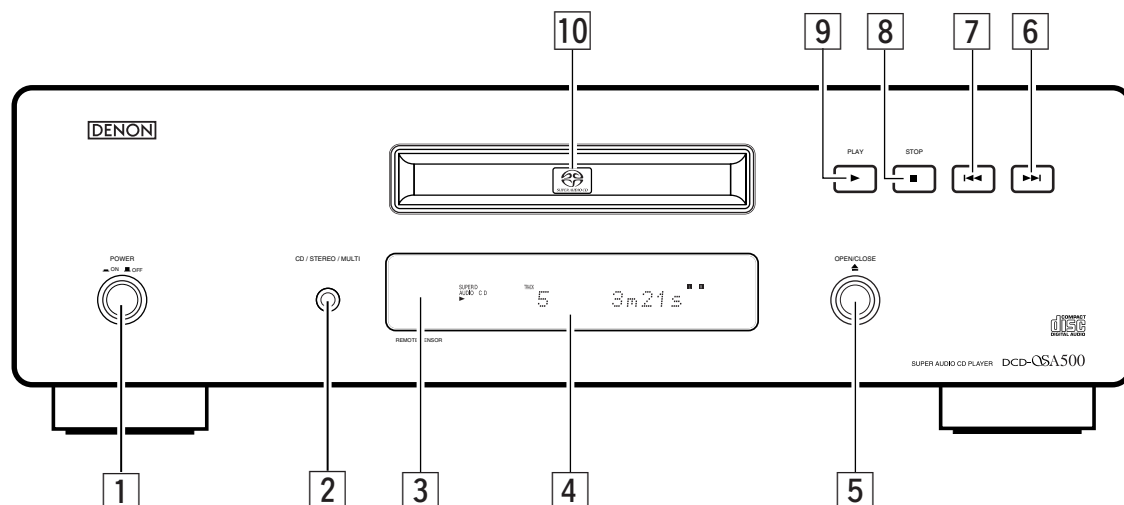
- 市販のピンプラグコードを使用して、下図のように接続してください。
- フロントチャンネルの端子は2組のうち、どちらか1組を接続してください。

ご注意

スーパーオーディオCDの出力はアナログのみです。
デジタルでは出力されません。

(2) デジタル出力端子（COAXIAL/OPTICAL）の接続

CDおよびスーパーオーディオCDのCDレイヤーのデジタル信号を出力することができます。接続される機器に対応した端子（COAXIAL出力端子またはOPTICAL（光信号）出力端子）を接続してください。

- COAXIALまたはOPTICALのどちらか一方を接続してください。
- COAXIAL端子には、市販の75Ωのピンプラグコード（EIAJ規格品）を下図のように接続してください。
- OPTICAL端子には市販の角型光ファイバーコード（EIAJ規格品）を下図のように接続してください。
  端子にはキャップがついておりますので、キャップを外して、コードをロックするまでしっかりと差し込んでください。
- スーパーオーディオCDは、デジタル出力されません。

7 各部の名前とはたらき

(1) フロントパネル

1 電源ボタン（POWER）

- 押して『ON』にすると、電源が入ります。
- ディスクが装着された状態で電源を入れると、自動的に演奏を開始します。
- もう一度押して『OFF』にすると電源が切れます。

2 スーパーオーディオCD演奏切り替えボタン（CD/STEREO/MULTI）

- 演奏するスーパーオーディオCDのレイヤーやエリアを切り替えるときや最優先演奏エリア/レイヤーの設定をおこなうときに使用します。
  - ・詳しくは『スーパーオーディオCD最優先演奏エリア/レイヤーの設定のしかた』（17ページ）を参照してください。

CD： CDレイヤーを演奏します。
STEREO：ステレオチャンネルエリアを演奏します。
MULTI： マルチチャンネルエリアを演奏します。

- 切り替わったレイヤー名やエリア名をディスプレイに表示します。

3 リモコン受光部

- 付属のリモコン（RC-968）をこの受光部に向けて操作してください。

4 ディスプレイ

- 12ページをご覧ください。

5 ディスクホルダー開閉ボタン（⏏ OPEN/CLOSE）

- ディスクホルダーを開閉させるときに押します。

6 オートマチックサーチ・フォワードボタン（▶▶I）

- 演奏中または一時停止中に押すと、次の曲の頭に移動します。

7 オートマチックサーチ・リバースボタン（I◀◀）

- 演奏中または一時停止中に押すと現在の曲の頭へ、さらに押すと前の曲の頭に移動します。

※ 6、7のボタンを押し続けると、連続的に動作します。

8 ストップボタン（STOP）

- 演奏を停止させるときに押します。

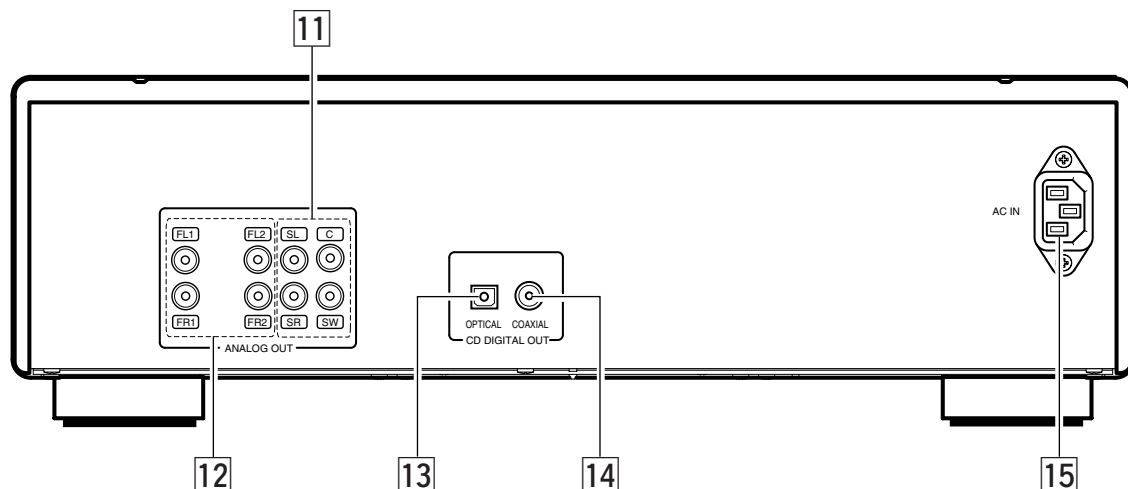
9 プレイボタン（PLAY）

- 演奏をはじめるときに押します。

10 ディスクホルダー

- ディスクを装着するところです。
- 開閉するときは、5ディスクホルダー開閉ボタンを押してください。
- 9プレイボタンを押しても閉じます。

各部の名前とはたらき（つづき）

(2) リアパネル

11 スーパーオーディオCD マルチチャンネル用出力端子 (ANALOG OUT：C/SW/SL/SR)

- マルチチャンネル演奏時にそれぞれ次のアナログ信号を出力します。
  C：　センターチャンネル信号
  SW：サブウーハーチャンネル信号
  SL：　サラウンドLチャンネル信号
  SR：　サラウンドRチャンネル信号

12 CD/スーパーオーディオCD アナログ出力端子 (ANALOG OUT：FL1/FL2/FR1/FR2)

- CDおよびスーパーオーディオCDのアナログ信号を出力します。
- FL（フロントL信号）、FR（フロントR信号）ともに2系統づつあり、端子1と端子2は同じ信号を出力します。
- マルチチャンネル演奏時にはマルチチャンネルのフロントL信号とフロントR信号が、ステレオ演奏時にはステレオ信号がそれぞれ出力されます。

13 CDデジタル出力端子（OPTICAL）

- デジタル信号を光で出力します。
- 接続できるコードは、市販の角型光ファイバーコードです。
- スーパーオーディオCDは、デジタル出力されません。

14 CDデジタル出力端子（COAXIAL）

- デジタル信号を出力します。
- 接続できるコードは、市販の75Ωのピンプラグコードです。
- スーパーオーディオCDは、デジタル出力されません。

15 電源入力端子（AC IN）

- 付属の電源コードを接続します。
- 付属の電源コード以外は使用しないでください。

ご注意

電源入力コネクターのアース端子（GND）は接続されておりません。

ステレオ音のエチケット

◎楽しい音楽も、時と場所によっては気になるものです。
◎隣り近所への配慮（おもいやり）を十分にいたしましょう。
◎ステレオの音量は、あなたの心がけ次第で小さくも大きくもなります。
◎特に静かな夜間は、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。
◎窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。
◎お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

各部の名前とはたらき（つづき）

(3) ディスプレイ

再生しているディスクが点灯します。
スーパーオーディオCDのCDレイヤー
モード演奏中はCDの表示をします。

トラック番号の表示中に点灯します。

プログラム選曲中および
演奏中に点灯します。

ランダム演奏中に
点灯します。

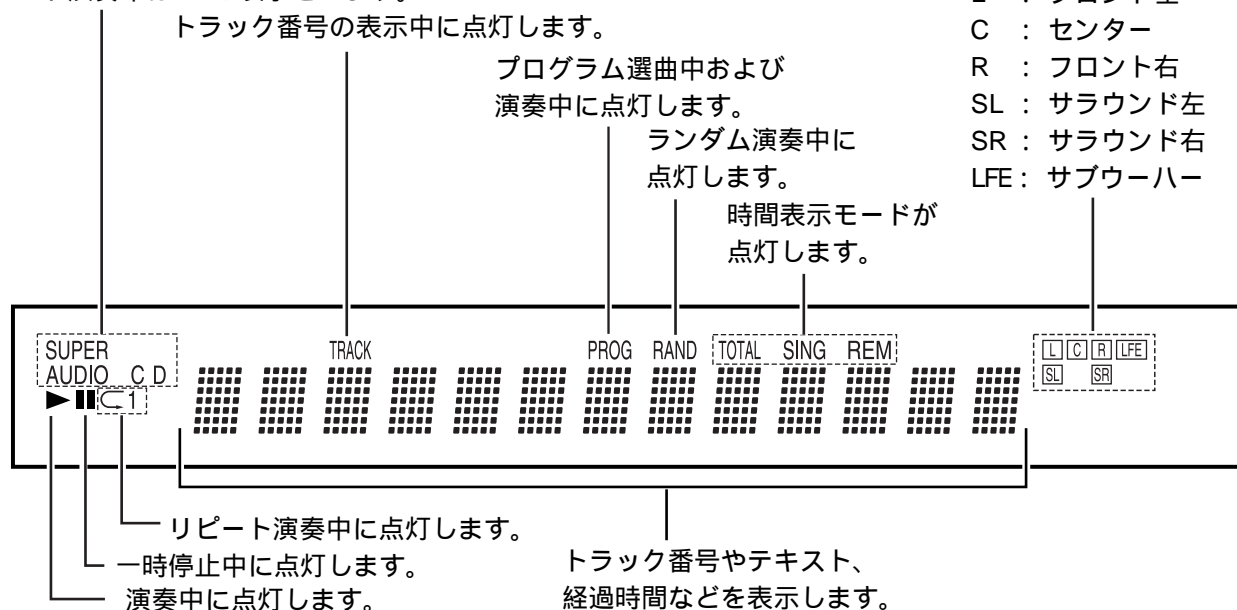
時間表示モードが
点灯します。

演奏している音声チャンネル
が点灯します。

L　：フロント左
C　：センター
R　：フロント右
SL：サラウンド左
SR：サラウンド右
LFE：サブウーハー

SUPER AUDIO CD　TRACK　PROG　RAND　TOTAL　SING　REM　L C R LFE SL SR

リピート演奏中に点灯します。
一時停止中に点灯します。
演奏中に点灯します。

トラック番号やテキスト、
経過時間などを表示します。

8 ディスクの取り扱いとご注意

演奏可能なディスクについて

1 スーパーオーディオCD

本機で演奏できるスーパーオーディオCDは、次のマークがついているものです。

Stereo Multi-ch

スーパーオーディオCDには以下の3つのタイプがあります。

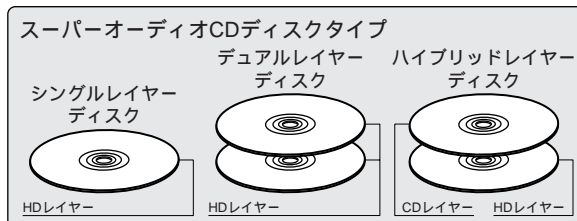
① シングルレイヤー・ディスク
HDレイヤーのみで構成される一層のスーパーオーディオCDです。

② デュアルレイヤー・ディスク
HDレイヤーが二層構造のスーパーオーディオCDであり、高音質での長時間演奏が可能です。

③ ハイブリッドレイヤー・ディスク
HDレイヤーとCDレイヤーの二層構造のスーパーオーディオCDです。CDレイヤーの内容は通常のCDプレーヤーで再生することができます。

● HDレイヤーについて
すべてのスーパーオーディオCDは、スーパーオーディオCD用の高密度信号層のHD（ハイデンシティ）レイヤーを持ち、そのレイヤーの中にはステレオチャンネルエリアとマルチチャンネルエリアの一方あるいは両方を持つことができます。

2 CD（コンパクトディスク）

COMPACT disc DIGITAL AUDIO

本機で演奏できるCDは、右のマークがついているものです。
但し、ハート型や八角形など、特殊形状のCDは演奏できません。機器の故障の原因となりますので、ご使用にならないでください。

3 CD-R/RWディスクについて

CD-R/RWディスクは傷や汚れ、および記録状態や記録機器の特性により演奏できない場合があります。また、ファイナライズされていないディスクは演奏できません。

ディスクの取り扱いとご注意（つづき）

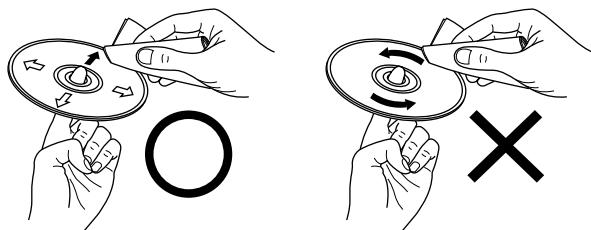
ディスクの持ちかた

ディスクを装着したり取り出すときは、できるだけ表面を触らないようにしてください。

信号記録面（虹色に光っている面）には、指紋などをつけないようにしてください。

ディスクのお手入れのしかた

■ ディスクに指紋や汚れが付いたときは、ディスクの信号には影響しませんが、音質が低下したり、音が途切れることがありますので、汚れを拭き取ってからご使用ください。

■ 拭き取りには、市販のディスククリーニングセットまたは柔らかい布などをご使用ください。

内周から外周方向へ軽く拭く。

円周に沿っては拭かない。

ご注意

レコードスプレー・帯電防止剤などは使用できません。ベンジン・シンナーなどの揮発性の薬品も使用しないでください。

取り扱いについてのご注意

- 指紋・油・ゴミなどをつけないでください。
- 表面に傷をつけないよう、特にケースからの出し入れには注意してください。
- 曲げたりしないでください。
- 熱を加えないでください。
- 中心の穴を大きくしないでください。
- レーベル面（印刷側）にボールペンや鉛筆などで文字を書かないでください。
- 屋外など寒いところから急に暖かいところへ移すと、表面に水滴がつくことがありますが、ヘアードライヤーなどで乾かさないでください。

保存についてのご注意

- 演奏後は必ずディスクを取り出してください。
- ほこり・傷・変形などを避けるため、必ずケースに入れてください。
- 次のような場所に置かないでください。
  1．直射日光が長時間当たるところ
  2．湿気・ほこりなどが多いところ
  3．暖房器具などの熱が当たるところ

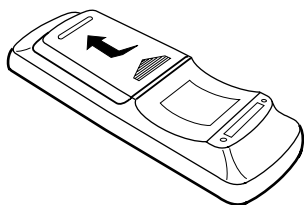
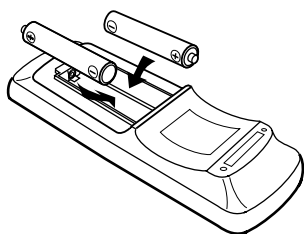
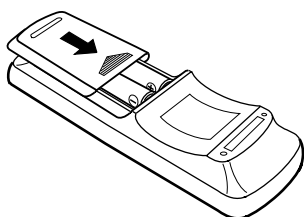
ディスクをセットする際のご注意

- ディスクは1枚だけセットしてください。2枚以上重ねてセットすると故障の原因となり、ディスクを傷つけることにもなります。
- 8cmディスクは、アダプターを使用せずに確実にディスクガイド（凹部）に合わせてセットしてください。正しくセットされないとディスクが脱落し、ディスクホルダーが開かなくなることがあります。
- ディスクホルダーが引き込まれるときに指を挟まないように注意してください。
- ディスク以外のものをディスクホルダーに載せないでください。
- ひび割れや変形、または接着剤などで補修したディスクは使用しないでください。
- ディスクにセロハンテープやレンタルCDのラベルなどの糊がはみ出したり、剥がした痕があるものはお使いにならないでください。そのままプレーヤーにかけると、ディスクが取り出せなくなったり、故障の原因となることがあります。

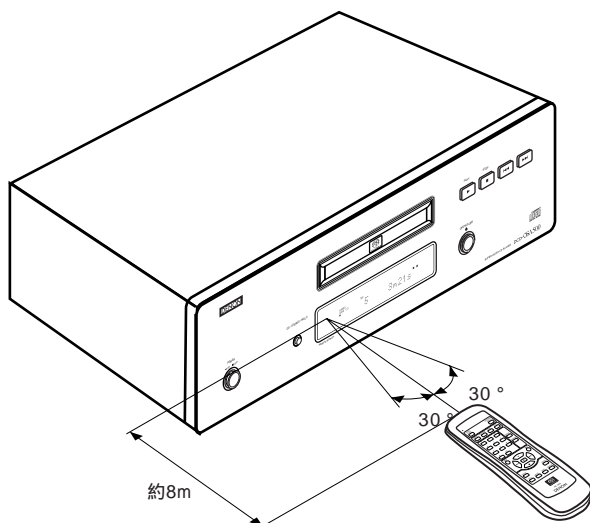
9 リモコンについて

★ 付属のリモコン（RC-968）を使用すると、離れたところから本機をコントロールすることができます。

（1）乾電池の入れかた

① リモコンの裏ぶたを外してください。

② 単3形乾電池（2本）をそれぞれ乾電池収納部の表示通りに入れてください。

③ 裏ぶたを元通りにしてください。

乾電池についてのご注意

- リモコンには単3形乾電池をご使用ください。
- リモコンの使用回数にもよりますが、乾電池は約1年毎に新しいものと交換してください。
- 1年経っていなくても、リモコンを本機の近くで操作して本機が動作しないときは、新しい乾電池と交換してください。
- 付属の乾電池は動作確認用です。早めに新しい乾電池と交換してください。
- 新しい乾電池と交換するときは、リモコンに使用している乾電池を取り出し、約2分間経過してから新しい乾電池を入れてください。
- 乾電池を入れるときは、リモコンの乾電池収納部の表示通りに、⊕側・⊖側を合わせて正しく入れてください。
- 破損・液漏れの恐れがありますので、
  - ・新しい乾電池と使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - ・違う種類の乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - ・乾電池をショートさせたり、分解や加熱、または火に投入したりしないでください。
- リモコンを長時間使用しないときは、乾電池を取り出してください。
- 万一、乾電池の液漏れがおこったときは、乾電池収納部内についた液をよくふきとってから新しい乾電池を入れてください。

（2）リモコンの使いかた

- リモコンは、図のようにリモコン受光部に向けてご使用ください。
- 直線距離では約8m離れたところまで使用できますが、障害物があったり、リモコン受光部に向いていないと受信距離は短くなります。
- リモコン受光部を基準にして左右30 ° までの範囲で操作できます。

ご注意

- リモコン受光部に直射日光や照明器具の強い光が当たっているとリモコンが動作しにくくなります。
- 本機とリモコンの操作ボタンを同時に押さないでください。誤動作の原因となります。

リモコンについて（つづき）

(3) リモコンボタンの名前とはたらき

★ 特に説明のないボタンは、本体と同じ働きをします。（10ページ参照）

※ オートマチックサーチ・リバースボタン（I◀◀）、オートマチックサーチ・フォワードボタン（▶▶I）、+10ボタンは、押し続けると連続的に動作します。

プログラムボタン（PROGRAM）
プログラム演奏をおこなうときに押します。（20ページ参照）

ディスクホルダー開閉ボタン（⏏ OPEN/CLOSE）

ダイレクトボタン（DIRECT）
プログラムした曲をすべて取り消すときに押します。（20ページ参照）

テンキーボタン（0〜9）
ダイレクト選曲またはプログラム選曲をおこなうときに押します。

プレイボタン（▶ PLAY）

オートマチックサーチ・リバースボタン（I◀◀）

マニュアルサーチ・リバースボタン（◀◀）
演奏を早戻しさせるときに押します。（19ページ参照）

ストップボタン（■ STOP）

セットアップボタン（SETUP）
セットアップモードに入るときや抜けるときに使用します。

タイトルボタン（TITLE）
ディスクタイトル、演奏中の曲のタイトルを表示するときに押します。（22ページ参照）

アーチストボタン（ARTIST）
ディスクアーチスト名のテキストを表示するときに押します。（22ページ参照）

タイムモードボタン（TIME）
演奏中または一時停止中に、時間表示を演奏曲の経過時間・演奏曲の残り時間・残り全曲の残り時間に切り替えるときに押します。（通常は演奏曲の経過時間を表示しています。）

クリアーボタン（CLEAR）
プログラム内容を変更させるときに押します。

スーパーオーディオCD演奏切り替えボタン（CD/STEREO/MULTI）

コールボタン（CALL）
プログラム内容を確認するときに押します。（20ページ参照）

リピートボタン（REPEAT）
リピート演奏をおこなうときに押します。（21ページ参照）

ランダムボタン（RANDOM）
ランダム演奏をおこなうときに押します。（20ページ参照）

+10ボタン
10以上の曲を選曲するときに押します。

オートマチックサーチ・フォワードボタン（▶▶I）

マニュアルサーチ・フォワードボタン（▶▶）
演奏を早送りさせるときに押します。（19ページ参照）

ポーズボタン（II PAUSE）
演奏を一時的に止めておくときに押します。（18ページ参照）

エンターボタン（ENTER）
セットアップモード内で各種決定をおこなうときに使用します。

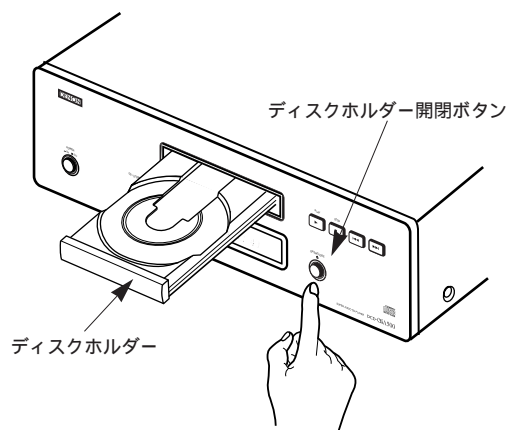
ディスプレイボタン（DISPLAY）
表示の明るさを変えるときに押します。1回押すと約2/3の明るさになります。さらにもう一度押すと約1/3の明るさになります。さらに押すと、演奏中は全ての表示が消え、演奏中以外はトラック番号を表示します。

10 ディスクホルダーの開閉とディスクの入れかた

(1) ディスクホルダーの開閉

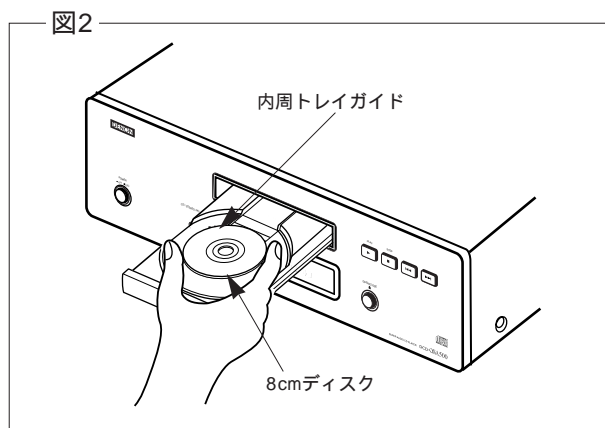
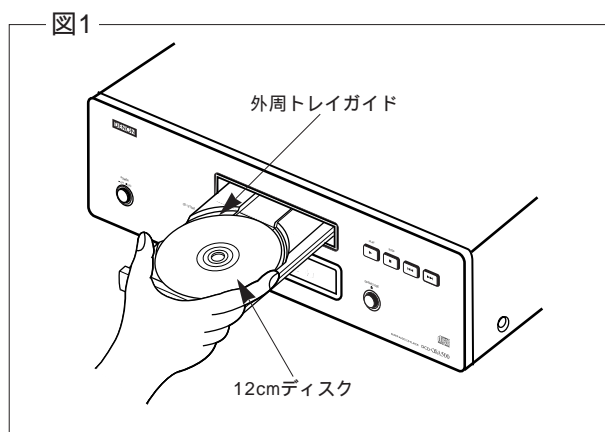
① 電源を入れてください。
- ディスクが装着されていないときは、“ NO DISC ” を表示します。

② ディスクホルダー開閉ボタンを押してください。

ご注意
- ディスクホルダーの開閉をするときは、必ず電源を入れてください。
- ボタンを鉛筆などで叩いたりしないでください。

(2) ディスクの入れかた

- ディスク情報面に手が触れないように持ち、レーベル面を上にして入れてください。
- ディスクホルダーが完全に開いた状態でディスクを入れてください。
- 12cmディスクは外周トレイガイド（図1）に合わせ、8cmディスクは内周トレイガイド（図2）に合わせて水平に載せてください。
- ディスクホルダー開閉ボタンを押すと、ディスクは自動的に装着されます。
- ディスクが装着されると、ディスクの収録曲数および収録時間が表示されます。
- テキスト情報が収録されているスーパーオーディオCDが装着されると、アルバムタイトルを1回スクロールしてから、ディスクの収録曲数および収録時間の表示に切り替わります。
- ディスクホルダーは、プレイボタン、ポーズボタン、テンキーボタンまたはディスクホルダーを押しても自動的に閉まり、ディスクを装着することができます。
- プレイボタンでディスクを装着したときは1曲目より演奏します。

図1

図2

ご注意
- 演奏可能なディスク以外のディスクを装着したり、ディスクを裏返しに装着したために正しく読み取れなかった場合は、“ NO DISC ” を表示します。
- 万一、指などを挟んだ場合は、あわてずにディスクホルダー開閉ボタンを押してください。
- 電源が切られている状態でディスクホルダーを手で押し込まないでください。故障の原因となります。
- ディスクホルダーに異物を入れないでください。故障の原因となります。
- ディスクを入れたとき、本体より “ ピッー ” という音が聴こえることがあります。これはディスクに合わせて本体内部のサーボ回路が自動調整をおこなうときに出す発信音です。
- ディスクホルダーを閉じたとき、本体より “ カチッ ”という音が聴こえることがあります。これはディスクの有無を検出する音です。

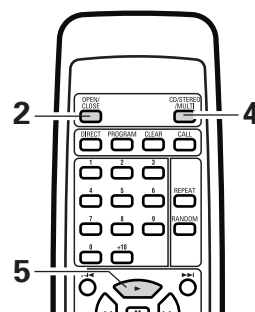
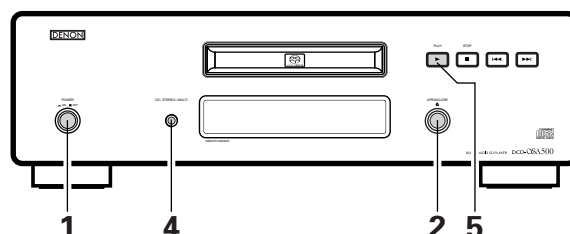
11 通常の演奏のしかた

(1) スーパーオーディオCD 最優先演奏エリア/レイヤーの設定のしかた

★ お使いのシステム（ステレオチャンネルやマルチチャンネル）に合わせて、ディスク装着後の最優先演奏エリア/レイヤーを設定することができます。
- 工場出荷時（初期状態）の最優先エリアは、『ステレオチャンネルエリア』です。

1	**電源を入れます。**
2	**ディスクが装着されていないことを確かめてください。** ※ ディスクの装着中にエリア/レイヤーの切り替えをおこなうと、そのディスクの演奏エリア/レイヤーが切り替わりますが、最優先演奏エリア/レイヤーの設定は変わりません。
3	**スーパーオーディオCD演奏切り替えボタンで、設定したいエリア/レイヤーに切り替えます。**

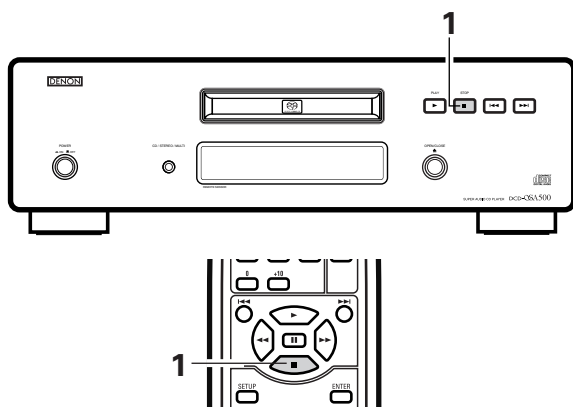
※ 設定後にディスクを装着すると、設定されたエリア/レイヤーの収録内容を表示します。
※ 設定した最優先エリア/レイヤーが収録されていないディスクを装着したときは、自動的に他のエリアやレイヤーの収録内容を表示します。
※ この設定は本機に記憶され、ディスクホルダーの開閉や電源の入/切でも解除されません。
設定を変えるときは、設定し直してください。

(2) 演奏の始めかた

1	**電源を入れます。**
2	**ディスクホルダー開閉ボタンを押します。**
3	**ディスクを入れます。** ※ ディスクの入れかたは、『ディスクの入れかた』（16ページ）を参照してください。
4	**スーパーオーディオCDのときは、必要に応じてスーパーオーディオCD演奏切り替えボタンで演奏したいレイヤーやエリアに設定します。** ※ 現在の演奏エリア/レイヤーを確認するには、スーパーオーディオCD演奏切り替えボタンを1回押してください。 " MULTI "、" STEREO " または " CD " が表示されます。この表示中に再度ボタンを押すと、演奏したいエリア/レイヤーを切り替えることができます。
5	**プレイボタンを押します。** ● ディスクの1曲目から最終曲まで、全曲を順番に演奏します。 ※ ディスクに収録されている曲（全曲）の演奏が終わると、自動的に停止状態になります。

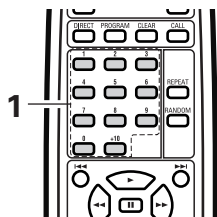
ご注意

ディスクに収録されていないレイヤーやエリアに切り替えることはできません。

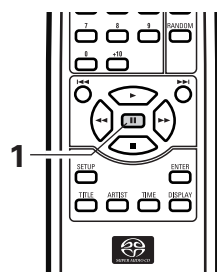
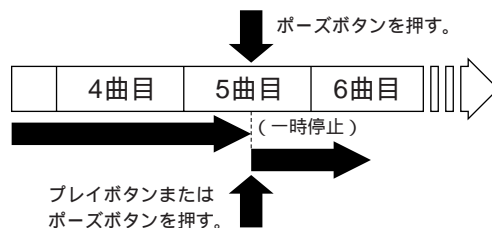
通常の演奏のしかた（つづき）

(3) 演奏の止めかた

1 **ストップボタンを押します。**
- 演奏が停止します。

12 いろいろな演奏のしかた

(1) 好きな曲を聴くとき（リモコンのみ） 『ダイレクト演奏』

1 **テンキーボタンおよび+10ボタンで、聴きたい曲番を入力します。**
- 例えば、4曲目を聴きたいときは 4 、12曲目を聴きたいときは +10 、2 、20曲目を聴きたいときは +10 、 +10 、0 と押してください。その曲から演奏がはじまります。

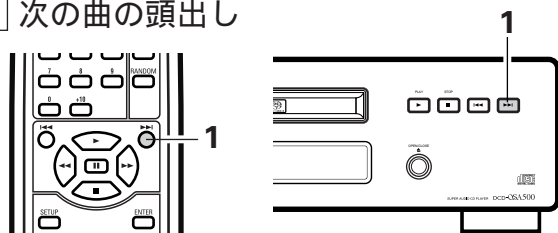
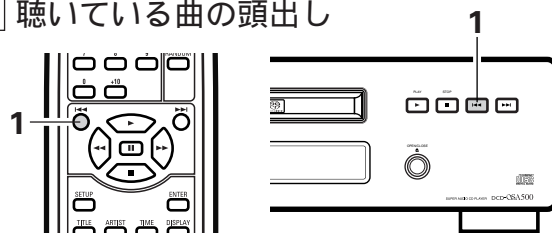
(2) 途中で演奏を一時的に止めておくとき（リモコンのみ） 『ポーズ』

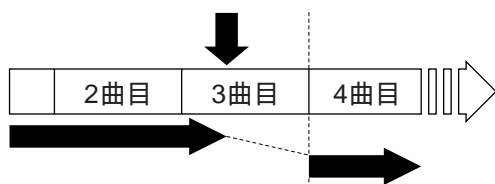
★ 演奏途中で一時止め、再びその位置から聴くことができます。

1 **ポーズボタンを押します。**
- 演奏を一時停止します。

※ 一時停止した位置から再び演奏を開始させるときはプレイボタンまたはポーズボタンを押してください。

いろいろな演奏のしかた（つづき）

(3) 演奏途中で曲の頭出しをおこなうとき　『オートマチックサーチ』

1 次の曲の頭出し

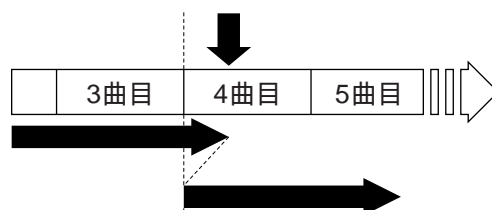
1

オートマチックサーチ・フォワードボタンを押します。

- 選曲動作（サーチ）中、さらにオートマチックサーチ・フォワードボタンを押すと、次々と後の曲の頭に移動することができます。

- ランダム演奏中に押すと、次の曲をランダムに選曲し、演奏します。

2 聴いている曲の頭出し

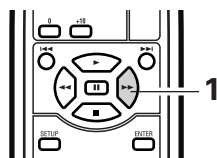
1

オートマチックサーチ・リバースボタンを押します。

- 選曲動作（サーチ）中、さらにオートマチックサーチ・リバースボタンを押すと、次々と前の曲の頭に移動することができます。

(4) 早聴きしながら好きな曲を探すとき（リモコンのみ）『マニュアルサーチ』

★ 飛び飛びに早聴きすることができます。
曲の中から好きな部分を探し、途中から聴くときに便利です。

1 早送りするとき

1

演奏中にマニュアルサーチ・フォワードボタンを押し続けます。

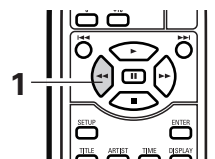
- ボタンから指を離せば、そこから通常の演奏をおこないます。

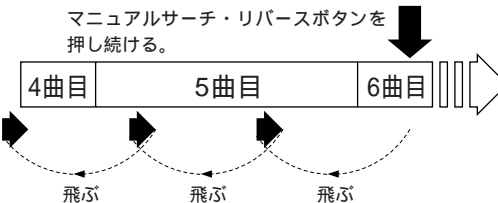
マニュアルサーチ・フォワードボタンを押し続ける。

2曲目	3曲目	4曲目

演奏　飛ぶ　飛ぶ　飛ぶ

2 早戻しするとき

1

演奏中にマニュアルサーチ・リバースボタンを押し続けます。

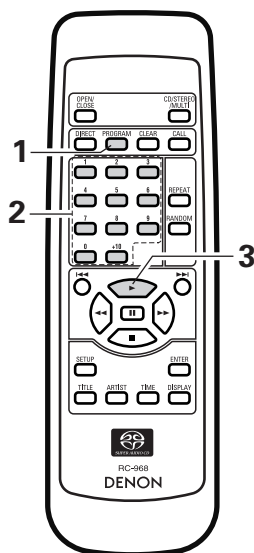
- ボタンから指を離せば、そこから通常の演奏をおこないます。

※ マニュアルサーチ・リバースボタンを押し続けて、収録されている最初の曲の頭まで戻るとマニュアルサーチが終了します。ボタン押しを止めると、1曲目の頭から演奏をはじめます。

ご注意

- マニュアルサーチから通常の演奏に戻るときに、若干音が途切れることがあります。
- ディスクの最後の約3秒間はマニュアルサーチボタンを受け付けません。
- プログラム演奏中やランダム演奏中または1曲リピート演奏中に演奏中の曲の終わりの約3秒前までマニュアルサーチをすると、マニュアルサーチを終了します。

いろいろな演奏のしかた（つづき）

(5) 聴きたい曲を好きな順番に聴くとき（リモコンのみ）　『プログラム演奏』

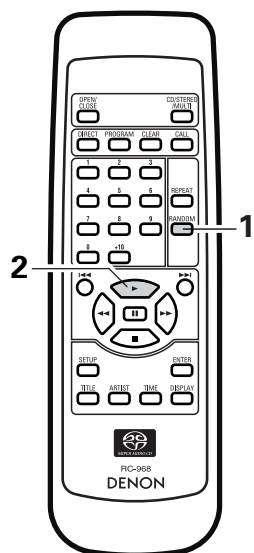
★ ディスクに収録されている曲の中から聴きたい曲を選び、好きな順番に聴くことができます。
★ 最大30曲までプログラムすることができます。

1	**停止中にプログラムボタンを押します。** ● " PROG " 表示が点灯します。
2	**テンキーボタンおよび+10ボタンで、プログラムしたい曲を入力します。** ● 例えば3曲目、12曲目、7曲目とプログラムしたい場合は、PROGRAM 、3 、+10 、2 、7 と押してください。
3	**プレイボタンを押します。** ● プログラムした順に演奏します。

※ プログラムした曲を確認するときは、リモコンのコールボタンを押してください。1回押すごとにプログラムした内容が順次ディスプレイに表示されます。
※ 最後にプログラムした曲を取り消すときは、停止中にクリアーボタンを押してください。
※ プログラムした曲をすべて取り消すときは、停止中にダイレクトボタンを押してください。またはディスクホルダー開閉ボタンを押してディスクホルダーを開くと取り消されます。

ご注意

● プログラム演奏中、ダイレクト選曲はできません。
● プログラム総演奏時間が999分59秒をこえる入力をした場合、プログラム総時間は---m--sと表示されます。

(6) 順不同に聴くとき（リモコンのみ）　『ランダム演奏』

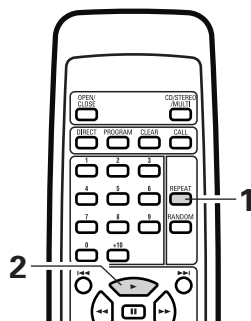
★ ディスクに収録されている曲をランダム（無作為）な順序で1回ずつ聴くことができます。

1	**停止中にランダムボタンを押します。** ● " RAND " 表示が点灯します。
2	**プレイボタンを押します。** ◎ 通常時： 自動的に選曲して、ランダム演奏をします。 ◎ プログラム入力時： プログラムした曲の中でランダム演奏をします。 ◎ 全曲リピートモード時： 一通りのランダム演奏後、毎回違ったパターンでランダム演奏します。

※ ランダム演奏を解除するときは、演奏を停止してからランダムボタンを押してください。

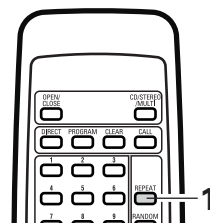
ご注意

● ランダム演奏中、ダイレクト選曲はできません。

（7）くり返して聴くとき（リモコンのみ）　『リピート演奏』

1 全曲をくり返して聴くとき『全曲リピート演奏』

1	**リピートボタンを1回押します。** ● “ ” 表示が点灯します。
2	**プレイボタンを押します。**

※ 演奏中にリピートボタンを押した場合も、全曲リピート演奏になります。
※ プログラム演奏中にリピートボタンを押した場合は、プログラムした順に演奏をくり返します。
※ ランダム演奏中に押すと、一通りのランダム演奏後、毎回違ったパターンでランダム演奏します。
※ 全曲リピート演奏を解除するときは、続けて2回リピートボタンを押してください。またはディスクホルダーを開いても解除されます。

2 1曲のみをくり返して聴くとき『1曲リピート演奏』

1	**演奏中にリピートボタンを2回押します。** ● “ 1 ” 表示が点灯し、その曲をくり返し演奏します。

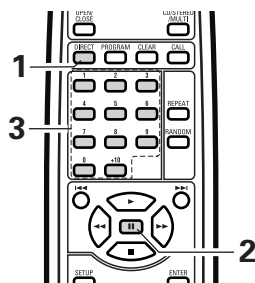
演奏中にリピートボタンを2回押す。

	2曲目	3曲目	4曲目

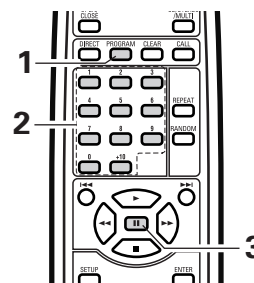
この動作を何回もくり返す。

※ 停止状態でリピートボタンを2回押すと、1曲目のリピート演奏可能状態になります。演奏はプレイボタンを押すとはじまります。
※ 1曲リピート演奏を解除するときは、もう一度リピートボタンを押してください。またはディスクホルダーを開いても解除されます。

（8）頭出しをして演奏を止めておくとき（リモコンのみ）　『ポーズ』

1 ダイレクト選曲による頭出し

1	**ダイレクトボタンを押します。**
2	**ポーズボタンを押します。**
3	**テンキーボタンおよび+10ボタンで、聴きたい曲番を入力します。**

※ 演奏を開始するときは、プレイボタンまたはポーズボタンを押してください。

2 プログラム選曲による頭出し

1	**プログラムボタンを押します。**
2	**テンキーボタンおよび+10ボタンで、プログラムしたい曲番を入力します。**
3	**ポーズボタンを押します。**

※ 演奏を開始するときは、プレイボタンまたはポーズボタンを押してください。

(9) テキストの表示をおこなうとき（スーパーオーディオCDのみ）

★ テキストが収録されているスーパーオーディオCDの停止中や演奏中に、ディスクに収録されているテキスト情報をディスプレイに表示することができます。
★ アルバムのタイトル、アルバムのアーチスト名、曲のタイトルを表示できます。
★ 表示できる文字は大文字アルファベット、小文字アルファベット、数字および一部の記号です。

1 停止中のテキスト表示

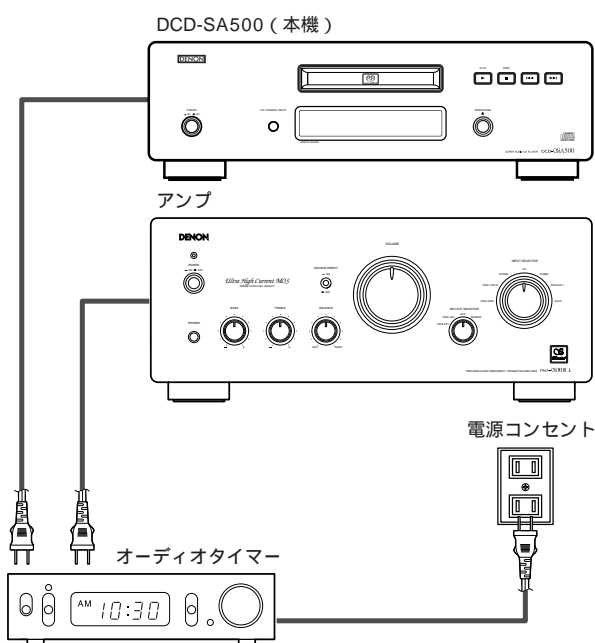
・タイトルボタンを押すと、アルバムのタイトルをスクロール表示します。
・アーチストボタンを押すと、アルバムのアーチスト名をスクロール表示します。

2 演奏中のテキスト表示

・タイトルボタンを押すと、演奏中の曲のタイトルをスクロール表示します。

※ テキスト表示中に収録時間の表示に切り替えるときは、タイムモードボタンを押します。
※ タイトルボタンやアーチストボタンを押すと、テキストを1回スクロール表示し、スクロールが終わるとテキストの先頭から13文字だけを表示します。
※ 曲のタイトルを表示しているときに曲が切り替わると、切り替わった曲のタイトルをスクロール表示します。
※ テキスト情報が収録されていないディスクの装着中にタイトルボタンやアーチストボタンを押すと、“ NO TEXT ” を表示します。

13 タイマー演奏のしかた

(1) 接続のしかた

(2) 操作のしかた

1	**接続した各機器の電源を入れます。**
2	**アンプの入力切り替えボタンを本機との接続にあわせます。**
3	**本機にディスクを入れます。**
4	**現在時刻を確認します。**
5	**オーディオタイマーを希望時刻にセットします。** ※ オーディオタイマーの取扱説明書もあわせてご覧ください。
6	**オーディオタイマーを『ON』にします。** ● オーディオタイマーに接続された機器の電源が切れます。 ● 希望時刻になると自動的に各機器の電源が入り、装着されているCDまたはスーパーオーディオCDの1曲目から演奏します。

14 スピーカー設定のしかた

★ 本機はスピーカー設定機能を搭載しています。
スピーカー設定機能とは、スピーカーの配置やサイズに合わせたスーパーオーディオCDの再生環境を設定する機能です。
- 本機能は、『マルチチャンネルエリア』選択中のみ有効です。
- この設定は本機に記憶され、ディスクホルダーの開閉や電源の入/切でも解除されません。

(1) 各スピーカーの有無・大小の設定のしかた『スピーカーセットメニュー』

★ 各スピーカーの有無および大小を設定します。
- 工場出荷時（初期状態）の設定は、『全スピーカー有、および大』です。

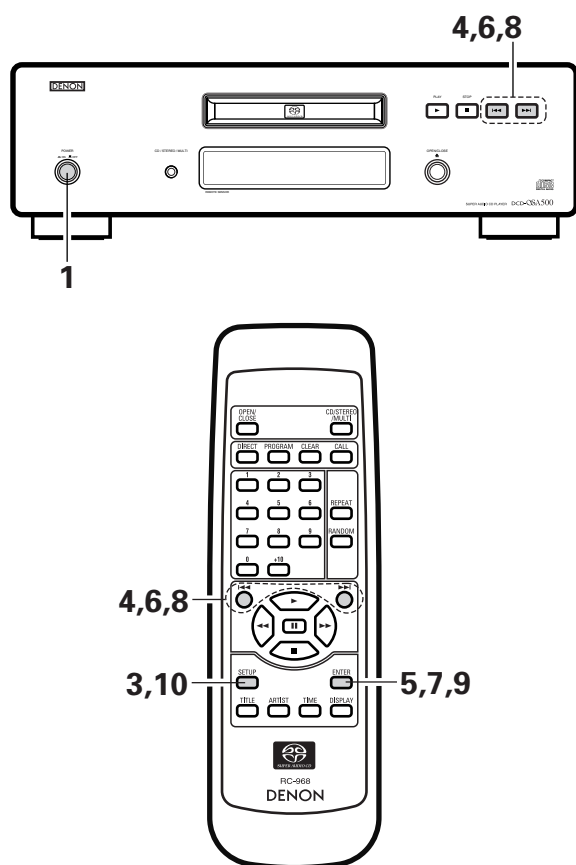
1	**電源を入れます。**
2	**ディスクホルダーが閉じており、演奏が停止していることを確かめてください。**
3	**セットアップボタンを押します。** ※『プログラム演奏』、『ランダム演奏』が設定されている場合は、ダイレクトボタンを押して解除後におこなってください。
4	**オートマチックサーチボタンを押して、“Speaker Set”を表示させます。**
5	**エンターボタンを押します。** ● スピーカーセットメニューに入ります。
6	**【サブウーハーの設定】** **オートマチックサーチボタンを押して、“Yes（有）/No（無）”を選択します。** ● 現在選択されている項目が点滅します。
7	**エンターボタンを押します。**
8	**【フロントスピーカーの設定】** **オートマチックサーチボタンを押して、“L（大）/S（小）”を選択します。** ● 現在選択されている項目が点滅します。 ※ サブウーハーを『No（無）』に設定した場合、フロントスピーカーは自動的に『L（大）』に設定されます。
9	**エンターボタンを押します。**
10	**【センタースピーカーの設定】** **オートマチックサーチボタンを押して、“L（大）/S（小）/N（無）”を選択します。** ● 現在選択されている項目が点滅します。 ※ フロントスピーカーを『S（小）』に設定した場合、センタースピーカーの『L（大）』は選択できません。
11	**エンターボタンを押します。**
12	**【サラウンドスピーカーの設定】** **オートマチックサーチボタンを押して、“L（大）/S（小）/N（無）”を選択します。** ● 現在選択されている項目が点滅します。 ※ フロントスピーカーを『S（小）』に設定した場合、サラウンドスピーカーの『L（大）』は選択できません。
13	**エンターボタンを押します。**
14	**セットアップボタンを押して、スピーカーセットメニューから抜けます。**

スピーカー設定のしかた（つづき）

（2）出力モードの設定およびローパスフィルター設定のしかた 『出力モード設定メニュー』

★ 各スピーカーから出力する音声レベルを固定にするか可変にするかを設定します。可変にした場合、各スピーカーから出力する音声レベルの調整ができます。（25ページの『レベル設定メニュー』を参照）

★『全スピーカー有および大』で、『レベル設定可変』を選択した場合、ローパスフィルターを有効にするか無効にするかを設定できます。ローパスフィルターを有効にした場合、サブウーハーからはフィルターを通った低域信号のみが出力されます。

- 工場出荷時（初期状態）の設定は、『固定』です。『固定』では、マルチチャンネルの信号をアッテネートせず、ダイレクトに出力します。

<table>
<tr><td>1</td><td colspan="2">電源を入れます。</td></tr>
<tr><td>2</td><td colspan="2">ディスクホルダーが閉じており、演奏が停止していることを確かめてください。</td></tr>
<tr><td>3</td><td colspan="2">セットアップボタンを押します。
※『プログラム演奏』、『ランダム演奏』が設定されている場合は、ダイレクトボタンを押して解除後におこなってください。</td></tr>
<tr><td>4</td><td colspan="2">オートマチックサーチボタンを押して、“ Output Mode ” を表示させます。</td></tr>
<tr><td>5</td><td colspan="2">エンターボタンを押します。
● 出力モード設定メニューに入ります。</td></tr>
<tr><td>6</td><td colspan="2">【出力モードの設定】
オートマチックサーチボタンを押して、“ Fix（固定）/Vari（可変）” を選択します。
● 現在選択されている項目が点滅します。</td></tr>
<tr><td>7</td><td colspan="2">エンターボタンを押します。
※ 出力モードを『Fix（固定）』に設定した場合、ローパスフィルターの設定はできません。（スキップされます。）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">8</td><td colspan="2">【ローパスフィルターの設定】
※ 全スピーカーが『Y（有）』かつ『L（大）』の場合のみ、ローパスフィルターOffの設定ができます。</td></tr>
<tr><td>『全スピーカー有、大』の場合</td><td>左記以外</td></tr>
<tr><td>オートマチックサーチボタンを押して、“ Off（無効）/On（有効）” を選択します。
● 現在選択されている項目が点滅します。</td><td>自動的にローパスフィルター『On（有効）』になります。</td></tr>
<tr><td>9</td><td colspan="2">エンターボタンを押します。</td></tr>
<tr><td>10</td><td colspan="2">セットアップボタンを押して、出力設定モードメニューから抜けます。</td></tr>
</table>

スピーカー設定のしかた（つづき）

(3) 各スピーカーの出力レベルの設定　『レベル設定メニュー』

★ 各スピーカーよりテストトーンを出力し、各スピーカーのテストトーンが同じ音量で聴こえるように調整します。
- 『出力モード可変』を選択した場合、工場出荷時（初期状態）の設定は、『－6dB』です。
  音量レベルは0dB～－12dBまでの範囲で、0.5dB単位で調整できます。
- レベル設定メニューは、出力モードが『Vari（可変）』になっている場合のみ設定できます。

1	**電源を入れます。**
2	**ディスクホルダーが閉じており、演奏が停止していることを確かめてください。**
3	**セットアップボタンを押します。** ※『プログラム演奏』、『ランダム演奏』が設定されている場合は、ダイレクトボタンを押して解除後におこなってください。
4	**24ページの出力モードの設定を『Vari（可変）』にします。**
5	**オートマチックサーチボタンを押して、“ Output Level ” を表示させます。**
6	**エンターボタンを押します。** ● レベル設定メニューに入ります。
7	**【フロントスピーカー左の出力レベルの設定】オートマチックサーチボタンを押して、出力レベルを調整します。** ※ レベル調整操作後約4秒間その操作をおこなわない場合、自動的に次のスピーカーの調整に移行します。
8	**エンターボタンを押します。**
9	**操作*7*、*8* を繰り返して、センタースピーカー→フロントスピーカー右→サラウンドスピーカー右→サラウンドスピーカー左→サブウーハーの順に出力レベルを調整します。** ※ サブウーハーの調整が完了したら、再びフロントスピーカー左の調整に戻ります。 ※ スピーカーセットメニューで『N（無）』に設定したスピーカーの調整はできません。（スキップされます。）
10	**セットアップボタンを押して、レベル設定メニューから抜けます。**

※ 各スピーカーレベルの調整を2回ずつおこなった後、レベル調整操作後約2秒間その操作をおこなわない場合は、自動的に次のスピーカーの調整に移行します。

スピーカー設定のしかた（つづき）

レベル設定メニュー表示

SUPER AUDIO CD Output Level

ENTER

フロントスピーカー左のレベル設定表示

SUPER AUDIO CD L :-12.0dB ← SUPER AUDIO CD L : -6.0dB → SUPER AUDIO CD L : 0.0dB

↓

センタースピーカーのレベル設定表示

↓

フロントスピーカー右のレベル設定表示

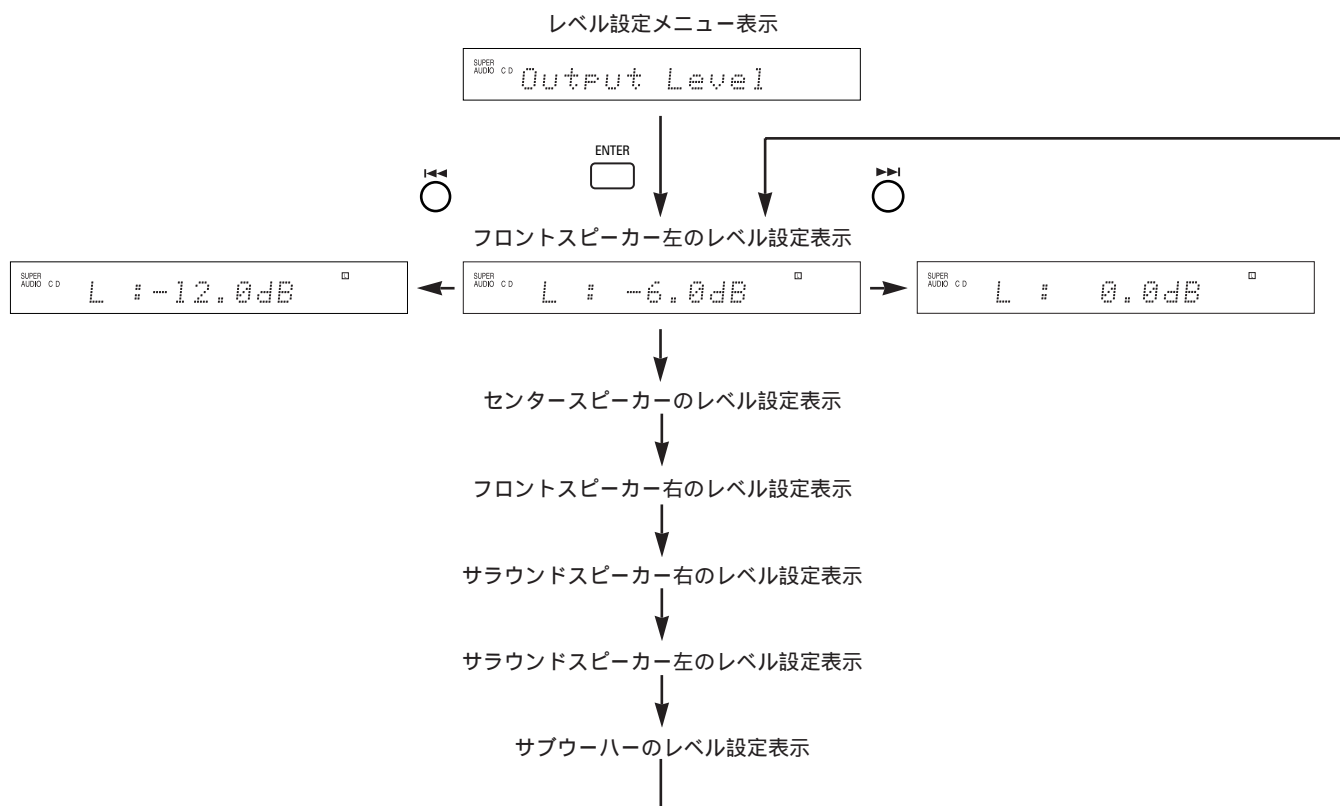
↓

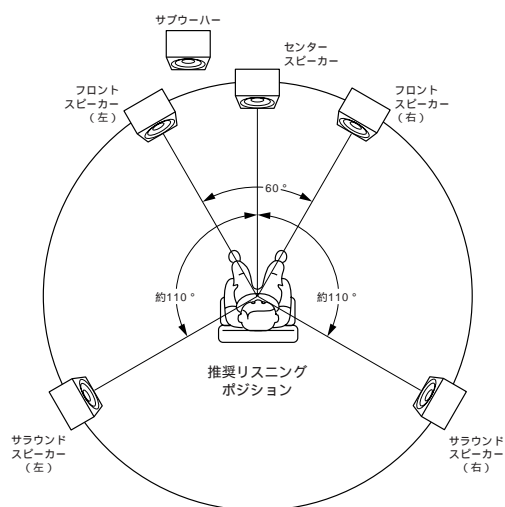
サラウンドスピーカー右のレベル設定表示

↓

サラウンドスピーカー左のレベル設定表示

↓

サブウーハーのレベル設定表示

15 スーパーオーディオCDマルチチャンネルオーディオのスピーカー設置のしかた

スーパーオーディオCDマルチチャンネルを最良な音場でお楽しみいただくには、ITU（国際電気通信連盟）が推奨するスピーカーの配置をおすすめします。スーパーオーディオCDマルチチャンネルディスクは、この配置のときに最良となるようにレコーディングやミキシングがされています。

スピーカーの数はフロント側3本、リア側2本の同タイプのスピーカー5本が基本です。マルチチャンネルディスクに記録されているチャンネルの数の基本は5チャンネル（3〜6チャンネルも可能）です。6チャンネル目をサブウーハー用に記録してあるものもあります。チャンネルの数はお聴きになるディスクに表示してあります。スピーカーの大きさが異なる場合は本機のスピーカー設定、またはアンプ側にてスピーカーの音量バランスを調整してください。通常の5.1チャンネルサラウンドの配置でもお聴きいただけますが、その場合、最良のスーパーオーディオCDマルチチャンネルの臨場感とは異なって聴こえる場合があります。

図のように、フロント（左右）、センター、サラウンド（左右）の各スピーカーはリスニングポジションを中心とする円周上に配置します。サブウーハーはお部屋に合わせて配置する位置をお選びください。

16 故障かな？と思ったら

故障？と思っても、もう一度確かめてみましょう

■ **各接続は正しいですか**

■ **取扱説明書に従って正しく操作していますか**

本機が正常に動作しないときは、次の表に従ってチェックしてみてください。
なお、この表の各項にも該当しない場合は本機の故障とも考えられますので、電源を切り、電源プラグを電源コンセントから抜きとり、お買い上げの販売店にご相談ください。
もし、お買い上げの販売店でお分かりにならない場合は、当社のお客様相談窓口またはお近くの修理相談窓口にご連絡ください。

現　　象	原　　因	処　　置	関連ページ
ディスクを入れても“ NO DISC ”表示になる。	● ディスクが正常に装着されていない。 ● CD、スーパーオーディオCD以外のディスクを再生させようとしている。	● ディスクを入れ直してください。 ● CD、スーパーオーディオCDのディスクを入れてください。	16 12
正常に演奏しない。	● ディスクが汚れたり、傷が付いたりしている。	● ディスクの汚れを拭き取るか、他のディスクと入れ替えてください。	13
音が出ない。または歪む。	● 正しくアンプに接続されていない。 ● アンプの調節・切り替えが不適切。 ● スーパーオーディオCDはデジタル出力されません。 ● スピーカー設定で、『スピーカー無』と設定した。	● 接続を確認してください。 ● アンプのつまみ類を調節してください。 ● スーパーオーディオCDはアナログ音声出力をお使いください。 ● スピーカー設定を正しくおこなってください。	8～9 ー 9 23
CD-R/CD-RWディスクが再生できない。	● ファイナライズがされていない。 ● 記録状態が悪い。またはディスク自体の品質が悪い。	● ファイナライズをしてから再生してください。 ● 正常に記録されたディスクを使用してください。	12 12
リモコンを操作しても正常に動作しない。	● 乾電池が消耗している。 ● 本機とリモコンが離れ過ぎている。	● 新しい乾電池を入れ替えてください。 ● 本機にリモコンを近づけてください。	14 14

17 主な仕様

	【スーパーオーディオCD】	【CD】
オーディオ特性		
■ アナログ出力		
チャンネル	6チャンネル最大	2チャンネル
再生周波数範囲	2Hz～100kHz	2Hz～20kHz
再生周波数特性	2Hz～50kHz（－3dB）	2Hz～20kHz
SN比	113dB（可聴帯域）	118dB
ダイナミックレンジ	107dB（可聴帯域）	100dB
高調波歪率	0.0008%（1kHz、可聴帯域）	0.0020%（1kHz）
出力レベル	2.0V（10kΩ）	2.0V（10kΩ）
■ デジタル出力		
COAXIAL	ー	0.5Vp-p/75Ω
OPTICAL	ー	－15～－21dBm
信号方式	1ビットDSD	16ビット・リニアPCM

使用ディスク　コンパクトディスク、スーパーオーディオCDディスク

総　合

- 電源　AC100V　50/60Hz
- 消費電力　25W
- 外形寸法　434（幅）×135（高さ）×330（奥行き）mm（フット・ツマミ・端子を含む）
- 質量　7.4kg

リモコン　RC-968

- リモコン方式　赤外線パルス式
- 電源　DC3V　R6P（単3形）乾電池2本使用

※（EIAJ）：（社）電子情報技術産業協会（略称JEITA）が制定した規格です。

※仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。
※本機を使用できるのは日本国内のみで、外国では使用できません。

※本機は国内仕様です。必ずAC100Vのコンセントに電源プラグを差し込んでご使用ください。AC100V以外の電源には絶対に接続しないでください。

株式会社デノン

本　　　社　　　〒113-0034 東京都文京区湯島3-16-11
お客様相談センター　TEL：（03）3837-8919
受付時間　9：30〜12：00、12：45〜17：30
（弊社休日および祝日を除く、月〜金曜日）

故障・修理・サービス部品についてのお問い合わせ先（サービスセンター）については、次の URL でもご確認できます。
http://denon.jp/info/info02.html

後日のために記入しておいてください。	
購入店名：	電　話（　　-　　-　　）
ご購入年月日：　　　　年　　月　　日	

Printed in Japan　511 4138 009